

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なかよしのき	3	□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。〔知識および技能〕(1)イ	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
たのしいいちにち	2	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳・B礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ	【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。
わたしのなまえ	2	◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳・特別活動：自己紹介をし、みんなに自分のことを知ってもらう。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ	【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。
おはなしたくさんききたいな	4	△さまざまな本の読み聞かせをとおして、読書への関心を高める。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1. 教科書の挿絵を見て、知っている本について話し合う。 2. 絵本の読み聞かせを聞く。 3. 絵本の読み聞かせを聞き、好きな場面について、簡単な感想を発表する。		
こえのおおきさ どれくらい	1	◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア		◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ	【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
かいてみよう	3	△正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。⇒知技(3)ウ(ア)	◎【知識・技能】平仮名を読み、書いている。〔知識及び技能〕(1)ウ		【態度】進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書くこととしている。

こえをあわせてあいうえお	1	◇「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ	【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔知識及び技能〕(1)ク)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)	【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。
あいうえお	1	△母音や簡単な平仮名の読み方、書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ)		【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。
みつけてはなそう、たのしくきこう	3	◇挿絵から見つけた話題にそって話し相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり、応答したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。⇒◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)	【態度】積極的に互いの話に関心をもち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
かき、かぎ	2	△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく読んだり書いたりし、主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)	【態度】積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
ことばをあつめよう	2	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ)		【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
くまさんとありさんのごあいさつ	3	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔知識及び技能〕(1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ)	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。

ねこ、ねっこ	2	△促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ) ◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。([知識及び技能](1)カ)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ)	【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書くとしている。
ことばをつなごう	2	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ)	【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。
たのしくよう 1 あいうえおのうた	5	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)		【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
ごじゅうおん	6	△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)		【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。
けむりのきしゃ	5	□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cイ)	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書くとしている。

のばすおん	2	△長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)		【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
せんせい、あのね	5	■話し言葉がそのまま文になることを知り先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。([知識及び技能](1)カ)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)	【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書くとしている。
みんなにはなそう	4	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒◎知技(1)キ ◇身近なことや経験したことから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝えるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。([知識及び技能](1)キ)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。([思考力、判断力、表現力等]Aア)	【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
たのしくよう 1がぎくげこのうた	1	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)		【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
よくみてかこう	3	■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや伝える働きがあることに気付いている。([知識及び技能](1)ア)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)	【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書くようとしている。

すずめのくらし	6	□問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒知技(3)エ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書いている。〔知識及び技能〕(1)ウ	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cア	【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。
しゃ、しゅ、しょ	2	△拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見つけ、正しく読んだり書いたりする。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ		【態度】積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
たのしくよう 3 きゃきゅきょのうた	1	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔知識及び技能〕(1)ク		【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
しらせたいことをかこう	12	■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表◎B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア	【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書くようとしている。
は、を、へ	1	△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ		【態度】積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書くようとしている。

とよかんへいこう	2	△図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。([知識及び技能](3)エ)		【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
おはなしのくに	2	△挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。([知識及び技能](3)エ)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cイ)	【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を読もうとしている。
おきななかが	6	□繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cイ)	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
えにつき	4	■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表◎B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。([思考力、判断力、表現力等]Bイ)	【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書くとしている。

なつのおもいでをはなそう	5	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすんで話したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。([知識及び技能](1)イ)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。([思考力、判断力、表現力等]3Aア)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。([思考力、判断力、表現力等]3Aエ)	【態度】積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
かたかなのことば	2	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)			【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
けんかした山	6	□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。([知識及び技能](1)エ)	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。([思考力、判断力、表現力等]3Cイ)	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
みんなでたのしくはなしよう	2	□役割を決めてグループで音読する。 △話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。([思考力、判断力、表現力等]3Cカ)		【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。
かん字のはじまり	3	△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。([知識及び技能](1)エ)			【態度】進んで当該学年に配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

だれが、たべたのでしょうか	7	□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。((【知識及び技能】(1)カ) ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((【知識及び技能】(1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。((【思考力、判断力、表現力等】Cア)	【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって
たのしかったことをかこう	13	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書くこと。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((【知識及び技能】(1)ウ)	◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。((【思考力、判断力、表現力等】Bア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。((【思考力、判断力、表現力等】Bイ)	【態度】進んで経験したことから書くことを見つけ、学習の見通しを
かぞえうた	2	△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。((【知識及び技能】(1)エ) ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。((【知識及び技能】(3)イ)		【態度】進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。

かぞえよう	3	△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。([知識及び技能](1)エ)		【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。	
しをよもう	2	□イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。([知識及び技能](1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。([思考力、判断力、表現力等]Cエ)	【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。	
見つけたよ、いきもののひみつ		■生き物と触れ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)	【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。	
かかれていることをたしかめよう		□■自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み、乗り物のことを紹介する文章を書く。				
はたらくじどう車	5	□「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒知技(1)ク △共通、相連、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cア)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。([思考力、判断力、表現力等]Cウ)	【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。

「のりものカード」でしらせよう	10 ■乗り物について、カードを用いて順序にそって簡単な構成の説明の文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)	【態度】進んで事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「のりものカード」を書こうとしている。
えを見ておはなししよう	5 ◇絵を見て話題を見つけ、友達と話したり、友達の話を受けて答えたりする。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。⇒思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。⇒思判表A(2)イ	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)	【態度】進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。
かん字のひろば① 日づけとよう日	2 △日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。〔知識及び技能〕(1)エ)		【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。
しゃしんと文から、だれがなにをしたかたしかめよう	□■写真と文から誰が何をしたかを読み、写真から言葉を想像してお話を書く。			
うみへのながいたび	10 □白くまの様子を考えながら声に出して読み、写真と文から、誰が何をしたかを確かめる。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔知識及び技能〕(1)ク)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像	

きこえてきたよ、こんなことば	6	■写真をもとに、ふきだしの中の言葉を考えて、お話を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)	【態度】進んで想像したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして簡単なお話を書くとしている。
天にのぼったおけやさん	3	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、好きなところを音読する。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒◎知技(3)ア □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。([知識及び技能](3)ア)	【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。([思考力、判断力、表現力等]Cエ)	【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。
かたかな	2	△片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)		【態度】積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
かん字のひろば ②かん字のよみかた	2	△漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。([知識及び技能](1)エ)		【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方がによって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。
ころもかばか手がみをかこう	4	■相手を決めて、気持ちが伝わるように手紙を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。([知識及び技能](1)ア)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。([思考力、判断力、表現力等]Bエ)	【態度】粘り強く文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正し、学習の見通しをもって手紙を書くとしている。
三 ばめんの ようすをくらべて よもう		□人物の動きや場面の様子の楽しさを読み、読書の世界を広げる。			

スイミー	5	□どのようなお話が考えながら読み、おもしろかったところを紹介する。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((【知識及び技能】(3)エ)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。((【思考力、判断力、表現力等】C)エ)	【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って考えた言葉を発表しようとしている。
「おはなしどうぶつえん」をつくって、本をしょうかいしよう	5	□動物の出ってくる本を読んで、友達に紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((【知識及び技能】(1)ア)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。((【思考力、判断力、表現力等】C)カ)	【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、今までの学習を生かして「おはなしどうぶつえん」を作り、本を紹介しようとしている。
しをたのしもう	1	△イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((【知識及び技能】(1)ク)	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。((【思考力、判断力、表現力等】C)エ)	【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
ぶんしょうとえをあわせてよもう	14	□文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文章を書く。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((【知識及び技能】(1)ア)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。((【思考力、判断力、表現力等】B)イ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。((【思考力、判断力、表現力等】C)オ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。((【思考力、判断力、表現力等】C)カ)	
みぶりでつたえる	10	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かる。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((【知識及び技能】(1)ア)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。((【思考力、判断力、表現力等】B)イ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。((【思考力、判断力、表現力等】C)オ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。((【思考力、判断力、表現力等】C)カ)	【態度】積極的に文章の内容と自分の体験とを結び付けて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

文をつくらう	1	△主語と述語の關係に氣をつけながら、いろいろな文を作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに氣付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △文の中における主語と述語との關係に氣付くこと。⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との關係について理解すること。⇒知技(2)ア	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との關係に氣付いている。([知識及び技能](1)カ)		【態度】進んで文の中における主語と述語との關係に氣付こうとし、学習課題に沿って簡単な文を作ろうとしている。
かん字のひろば ③かわるよみかた	2	△使い方によって漢字の読み方が変わるものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに氣付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。([知識及び技能](1)エ)		【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。
きいたことを正しくつたえよう		◇学校で働く人に、知りたいことを尋ねて、聞いたことをメモをもとに学級の人みんなに知らせる。			
学校のことをつたえあおう	8	△音節と文字との關係、アクセントによる語の意味の違いなどに氣付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに氣を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。([知識及び技能](1)イ)	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Aウ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。([思考力、判断力、表現力等]Aエ)	【態度】進んで伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かして聞いたことを伝えようとしている。
ことばでつたえよう	3	△目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに氣付くこと。⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに氣付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに氣付いている。([知識及び技能](1)ア)		【態度】進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに氣付こうとし、学習課題に沿って言葉で表そうとしている。
つたえたことをおもしろい出でかこう		■経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。			
おもしろい出のアルバム	8	方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との關係について理解すること。⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。([知識及び技能](1)ウ)	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。([思考力、判断力、表現力等]Bエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている	【態度】積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。
ようすをおもしろいかべながらよう		□様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く。			

お手がみ	15	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒知技(1)ク ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)イ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。((【知識及び技能】(1)カ)	【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。((【思考力、判断力、表現力等】Bオ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。((【思考力、判断力、表現力等】Cオ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。((【思考力、判断力、表現力等】Cカ)	【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習課題に沿って
こくごの がくしゅう これまで これから	2	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。((【思考力、判断力、表現力等】Aア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。((【思考力、判断力、表現力等】Bア)		【態度】進んで話題を決め、これまでの学習を生かして思い出したことや二年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。